

■大阪府生活協同組合連合会・大阪いずみ市民生協・大阪よどがわ市民生協・おおさかパルコープ 共同企画
「能登半島地震 被災地支援ボランティア 11/30-12/1」 報告

おおさかパルコープ理事会室・菅生

日時：2024年12月30日（土）～12月1日（日）

参加：8名（組合員さん5名、事務局3名：監事会事務局・白石さん、経理・亀田さん、菅生）

活動場所：1日め 輪島市・応急仮設住宅 町野町（まちのまち）第1団地
2日め 輪島市・町野町大川地区の仮宮あたり

組合員さんが参加されての「能登半島地震災害支援ボランティア」の第3回目の事務局として被災地に訪問、無事終了しました。余震も多少あったようですが、私たちは揺れを感じることも無かったです。



あさ7:20、大阪駅に集合するも、お一人が東西線の運転見合わせに巻き込まれ、新大阪駅から合流することに…。(清算は車中にて)なので集合写真は金沢駅にて。

◆1日目は、応急仮設住宅 町野町（まちのまち）第1団地

もとやスーパー近くの輪島市応急仮設住宅（町野町第一団地）の集会所にて、初チャレンジの「ベビーカステラ」を提供しました。ここの集会所で、「直近でたこ焼きの炊き出しがあるので、別のメニューにしてほしい」との要請に応えたものです。能登に行くまで材料の配合などを4日間試行錯誤し、レシピを作成して当日にボランティア参加の組合員さんに配布。

プレーン味・チョコチップ味・チーズ味など具も工夫しながら組合員さんの要領も良くて、美味しいベビーカステラをお渡しすることができ喜んでいただきました。（5個入り90パック）



町野町第1団地には81世帯が入居されているそう



事務局の白石さんと亀田さんも一緒に



ベビーカステラ

お天気が悪いせいもあってか、来られる方は10人弱くらい…。ただ、焼いたベビーカステラはパック詰めして、災害NGO結さんの方が集会所に来られていないお宅に配ってくださるとのことで、託しました！



たこ焼きのバックより、一回り小さいサイズの容器で提供



左の写真はチーズ味。「カステラの中に入れるより、表面に見せて焼いた方がおいしいかも!!!」と、その場で組合員さんがアレンジしてくれました



中になにも入れない「プレーン味」が、お持ち帰りの一番人気でした

◆ 2日目は町野町大川地区の仮宮（お神輿など格納する倉庫のような場所）の前で、たこ焼き。
海が見えるほどに近い場所で、朝から雨が振ったりやんだりするなか、また外での炊き出し（笑）でしたが、災害 NGO 結さんのテント下で作業できたので濡れることはなかったです。（5個入り 140パック提供）

傍らでは、結さんがその場で炊いたご飯をおにぎりにしたものとお炊いた豚汁もお渡しされていました。



すぐ側に海が見える地域。手前のお宅は屋根の瓦がずれたまま…



途中、地元の親子も一般に焼いたりして楽しんでもらいました





大川地区のお姉さんがたと、災害 NGO 結の方とパル参加者で記念撮影！
以下は、災害 NGO 結さんの facebook より

傍らでは、災害 NGO 結さんによる、豚汁とおにぎりも出されて、かごを持った地元の方が次々来られていました



災害NGO結

22時間



【毎日報告】@町野町12/1

町中から離れた集落でふるまいをしました。地震の時に地域の方がみんな避難してきたお宮さんの前で実施でした。

「あの時以来ここにきたよ」とおっしゃる方もいらっしゃいました。

残念ながら中は修繕中で使えなかったため、外でテントを立てて、大阪バルコブさんがたこ焼きを作ってくれました。ありがとうございました。

「こんなところまで炊き出しに来てくれるのははじめて！」と喜ぶお姉様たち。大きな避難所や集まるポイントからは距離があるため、さうした意見も仕方ないかもしれません。雨がバラバラするお天気でしたが、在宅の方も仮設の方も入れ替わりに来てくださいました。アツアツのたこ焼きや豚汁を待つ間にあれこれ立ち話をさせていました。次回は修繕されたお宮さんの中でゆっくりお話する時間が作れたらいいなあと思います (あ)



現地は、いまだ倒壊した建物や豪雨の土砂で流された家屋などが残されています。写真はホテル近くの輪島朝市のようす。

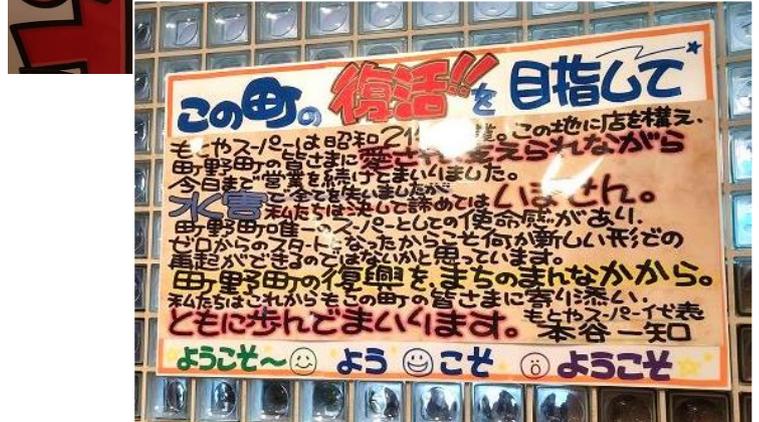


活動終了後に、「もとやスーパー」にも立ち寄り、すこし買い物もできました。



会長の一郎さんも
お元気そうでした！

ちょうど 11/30 に、復活グランドオープン！！9/21の豪雨被害で店内や周辺など大量の泥が押し寄せていたところとは思えないほど、きれいになっていました



品揃えも豊富で、鮮魚やお野菜なども品揃え。カップ麺・レトルト食品が大量に並べられて、この地域の今の需要も垣間見れました。

今回参加して下さった組合員さん5人のうち3人は初対面どうしにもかかわらず、現地へ向かう車中から和気あいあいとした雰囲気です。2日目の朝には円陣を組んで気合いをいれるくらい、団結力が生まれているのを見て心地よかったです。

参加者の方からは、

「このボランティアに応募することで、家族の中でも能登半島地震のことや災害・防災について改めて話をすることができました。ここでも、たこ焼きをすごく喜んでくれて嬉しかった。参加できて良かったです」

「直接現地に出向くことで肌感覚もかわりました。私の周りの方にも私の言葉で感じたことをお伝えしていきます。次回で機会が合えば、ぜひ若い世代の息子たちも連れていきたいです」

「小学校の時、私と一緒に東北支援ボランティアに参加した息子が、今回の報告に興味深く聞いてくれました。やはり自分の目で見て体験するって大切なんやなと10年経って実感しました」と言ってくださいました。



最後、大阪駅で解散する時も8人みんなで円陣